「日々の理科」（第 2541 号） 2021,-6,28

「コードサナギの羽化」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

アゲハの幼虫は、サナギになる時期が近づくと、餌になるミカンの仲間の葉がある飼育場所から「脱走」して、より蛹化しやすい場所を探してさまようことが多い。あえて閉ざされた虫かごの中よりも、たとえ教室内であっても、幼虫がよりよい場所を探す本能が大切だと考え、そのまま好きにさせている。

蛹になる場所は、児童机の脚、ロッカーの中、黒板のチョーク受けの裏などさまざまである。この幼虫は、電気の延長コードで前蛹（ぜんよう）になってしまった。こうなったら、もう虫だけ移動させることはできないので、コードごと移動した。

翌日にはそのままサナギになっていた。しばらくしてから「サナギホルダー」にしても良いのだが、私はあえてこのままにして毎日観察させた。

６月下旬の朝、チョウは羽化していた。サナギの殻の少し上のコードにしっかりつかまって、翅を乾かしている。幼虫は、実は「羽化に適した場所」として、このコード上を選んでいたのである。

完全に展翅に成功していたので、指先に移して飛ばしても良かったのだが、私はアゲハが自発的に飛び立つのを子どもたちと見守ることにした。

アゲハは掃除の時間に、数分間教室内を舞ったあと、自分で窓から出ていった。子どもたちは「元気でね～」「たくさん卵産んでね～」「１年生に捕まらないでね～」と、「贈る言葉」と共に見送っていた。